

誉謝女王の作る歌

五九番

流らふる つま吹く風の 寒き夜に 我が背の君
は ひとりか寝らむ

長皇子の御歌

六〇番

宵に逢ひて 朝面なみ 名張にか 日長き妹が
廬せりけむ

舎人娘子、從駕にして作る歌

六一番

ますらをの さつ矢たばさみ 立ち向かひ 射る
的形は 見るにさやけし